

# 山行報告書

報告書作成

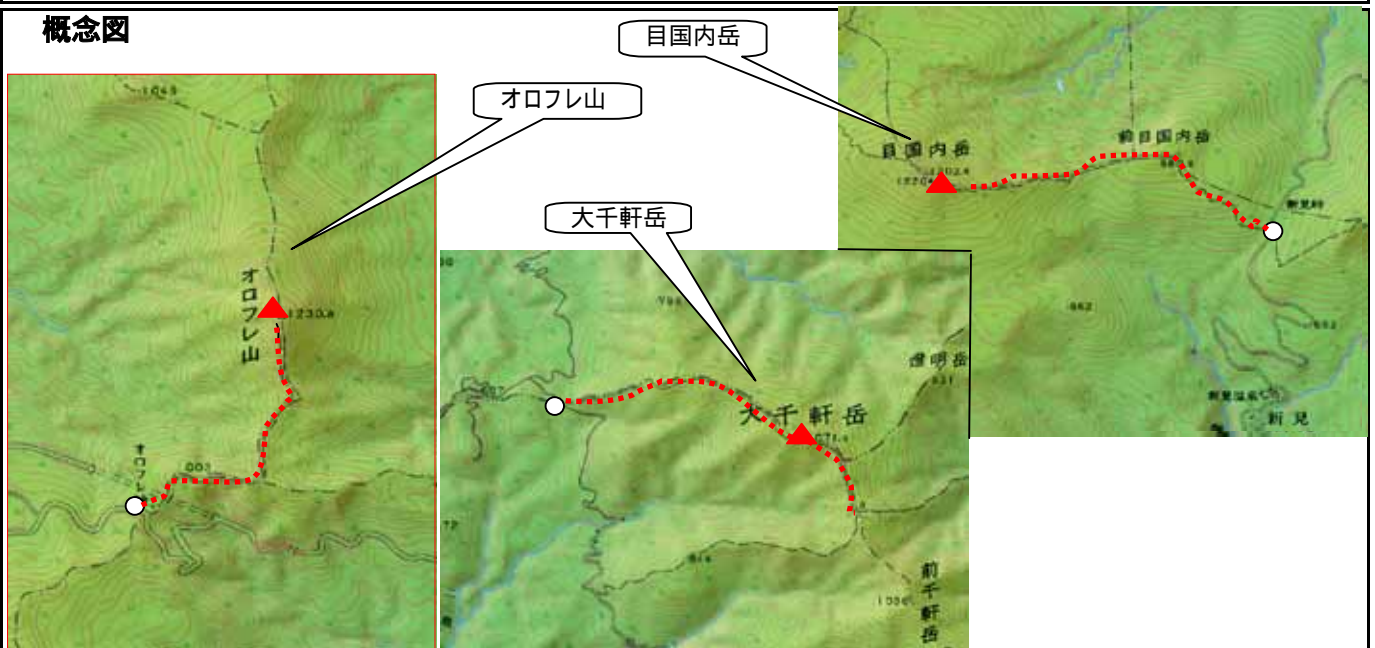
2005年6月20日

山名 [山域]	大千軒岳・オロフレ山・目国内岳(北海道)	目的と方法	花観賞
登山期間	2005年6月16日(木)～18日(土)	山行形態	日帰り ピストン
参加人数	4名		

## 行動記録

6/16(木) 名古屋中部空港9:05 > > 千歳10:45・レンタカー(12:00)===オロフレ展望台(13:35、13:45)---オロフレ山山頂(15:05、15:15)---オロフレ峠16:40 = 洞爺湖温泉 = 登別IC = 国縫IC = 道の駅森泊(20:30) 6/17(金) 道の駅森(6:15)発 = 大千軒岳新道登山口(9:30、9:50)---見返り坂---大千軒岳頂上(11:30)---中千軒岳(12:05、13:05)---大千軒岳(13:35)---見返り坂---新道登山口(14:20) = 松前温泉 = 大沼キャンプ場泊(20:00) 6/18(土) キャンプ場発(5:30) = 目国内新見峠登山口(8:00、8:25)---2合目(8:45)---3合目(9:00)---前目国内(9:15)---岩の門(9:50、10:00)---目国内頂上(11:00、11:20)---岩の門(11:40)---前目国内岳(12:15)---新見峠登山口(12:55、13:30)===新見温泉&山菜蕎麦夕食===支笏湖畔 美笛キャンプ場泊(18:00) 6/19(日) キャンプ場(6:40)発===苔の洞門===レンタカー返(8:00) 千歳空港10:30 > > 名古屋中部12:20

## 概念図



## 日誌

6/16(木) 小雨 の名古屋からやや曇空の札幌へ、ガスは少しずつ晴れ、オロフレ峠展望台に着くと、残雪を抱いた美しい羊蹄山。登山開始は午後、すぐに登山道にシラネアオイが 次々に満開で 撮影タイムで先に進まない。正に我々を歓迎するかのような 満開にして 一花も散らさずの佇まいのシラネアオイ。他には ツバメオモト・ノウゴウイチゴ・ミヤマカタバミ・ミヤマエンレイソウ・シロバナエンレイソウ・グンナイフウロ・アズマイチゲ・サンカヨウ等群落が続く。なだらかな尾根にミネザクラの満開、その先に羊蹄山、全ての瞬間が 絵となる場面である。端正な三角錐をした頂上は 開放感のある展望である。これといった体力も必要とせず、短時間で 高山植物の群落を静かに楽しめる貴重な山行。6/17(金) 大千軒岳登山日。天候は 曇り。渡島半島の西に位置する。国道228号から29キロの登山口へは22キロが未舗装の林道で未舗装林道に一時以上かかる。登山口への標識はしっかりして迷うことはない。新道登山口には十分な広さのP・トイレあり。ガスは殆ど晴れ、最高の登山日和。駐車場には他に一台のみ。プヨのような虫の多さに、閉口する。あちこちに群落があったり、頂上周辺の 広いお花畑に シラネアオイが 大海の小波の如くに微風に 花びらを揺らす。オロフレとは又違った風情で 楽しませてもらえる。他には、タニウツギ・マイズルソウ・フギレオオバキスミレ・ハクサンチドリ・ミヤマキンバイ・ミヤマキンボゲ・ミヤマアズマギク・オオサクラソウ・ツバメオモト・サンカヨウ・ベニバナイチゴ・チゴユリ・ツマトリソウ・オオバミゾホオズキ・ハクサンイチゲ等。登山者は少なく、大千軒岳から中千軒岳へ その周辺を散策する。前千軒岳へは 藪がひどく中止。登山者情報で、熊の事、登山道の花事情・時間などから 引き返す。岩清水は北海道では 貴重な生水を飲める水場で喉を潤す。標高差670m程度 危険な箇所もなく、展望&お花を 堪能した。大沼の畔 無料キャンプ場で 泊。6/18(土) 天候・曇り。目国内岳・登山口新見峠への道は 危険箇所は無いが匂の筒(ネマガリタケ?)や 踏採りの 地元の人の車で 道路はあちこちに 駐車。我々以外の 登山者一組(二人)のみ。道南の北部。登山口からかなりの 残雪あり。お花も カタクリ・水芭蕉・ザゼンソウが登山口に。かなりの雪渓もあり、頂上付近は 岩場で 初心者にはこの時期適さない。頂上付近、イワウメ、キバナシャクナゲがしっかりと咲く。ガスの為、展望きかず。最後の日は 支笏

## 感想

今年は全国的に 例年に比べ花時が遅く、今回の山行もそれを想定しての2ヶ月前からの航空券予約からの計画は大成功に終わった。北海道の山は 常に 何処でも 期待を裏切る事はない。厳しい長い冬の深い眠りから覚め、一斉に萌出る勢いのある山々・雪解けの側から咲き続く大群落のお花に魅了され、山岳会<四天女?>の歓声は 終道内にこだました。満開にして静かな山を楽しめた至福の三山であった。匂の筒も美味。新見温泉&蕎麦お勧めNO1。